

学園だより

'2012 オープンキャンパス開催!!

～希望の学科・専攻を1日で体験できる絶好のチャンス～

2012年度の吉備国際大学、吉備国際大学短期大学部、順正高等看護福祉専門学校オープンキャンパスに参加してみませんか？
受験生にとっては、将来を決める大事な選択をせまられるこの時期、自ら参加して学生生活の一端を体感してみてください。
また、受験生だけでなく、高校1、2年生や社会人の進学希望者はもちろんのこと、保護者もぜひ一緒に参加して下さい。
教職員一同、皆さんの参加を心よりお待ちしております。

会場：大学、専門学校…『高梁キャンパス』（高梁市伊賀町8）
短期大学部…『岡山駅前キャンパス』（岡山市北区岩田町2-5）

メインオープンキャンパス		学科別ミニオープンキャンパス	
日	時	日	時
7月22日(日)、8月25日(土)、9月23日(日)	10時30分～16時(受付10時～)	5月27日(日)、6月23日(土)、11月17日(土)、 12月1日(土)、12月22日(土)、2月17日(日)、 3月16日(土)	13時～16時30分
<small>当日はキャンパス見学、学部・学科紹介、ミニ講義、入試相談、AO面談、在学生コーナー、体験コーナー、学食体験、保護者相談コーナーなどを実施します。 また、備中高梁駅から無料送迎バスを随時運行します。</small>		<small>当日はキャンパス見学、学科紹介、入試相談、AO面談、保護者相談コーナーなどを実施します。 ※入試広報室へ電話にて参加をお申し込みください。</small>	

※短期大学部は、いずれの日も岡山駅前キャンパスにおいて13:00～16:30に開催します。
その他、10月14日(日)13:00～16:30に岡山駅前キャンパスで「学科説明会」を開催いたします。

■問い合わせ・申し込み先 順正学園入試広報室 (☎0120-25-9944)

成羽病院通信

健康なときにこそ人間ドックを受けよう

～人間ドックとうまく付き合うポイントは？～

◎人間ドックを受けるメリットは？

がんや病気を早期に発見でき、早期の治療が可能となります。
また、生活習慣病の発症予防や健康づくりにもつながります。

◎人間ドックとうまく付き合うポイントは？

- ①1年に1回は受診しましょう。
(毎年受けることで不調を早く発見できます。)
- ②データが正常範囲でも安心せず、自分の数値に関心を持ち、その変化を知りましょう。
(過去のデータとの比較ができます。)
- ③できるだけ、同じ健診機関で受診しましょう。
(過去のデータとの比較ができます。)
- ④要医療、要精密検査と診断された場合は必ず受診しましょう。
- ⑤必要によりホームドクターに健康状態を知ってもらいましょう。
(健康管理に役立ちます。)

会社員は定期健診や人間ドックの受診が定着してきましたが、主婦は健診の機会が少ないのが現状です。
これからの人間ドックは、自分だけでなく大切な家族と一緒に受けることをお勧めします。
また、人間ドック当日は、健診スタッフとの気軽なコミュニケーションを楽しむのも新鮮なものです。
日常の生活から少し離れた場所で、ゆっくり楽しみながら「自分の健康状態を知る」1日にしてみたいでしょうか。

成羽病院人間ドックのご案内 (一部紹介)

- ・日帰り人間ドック：29,400円
- ・簡易脳ドック：19,800円
- ・オプション検査
 - 乳がん検診(視触診+マンモグラフィー)：5,050円
 - 子宮がん検診：3,500円
 - 骨密度測定：3,780円

■問い合わせ 成羽病院健診担当 (☎43111)

地名をさぐる

八十二 宇治町 穴田

高梁市宇治町に「穴田^{あなだ}」という地名があります。「穴田」は、明治一四年(一八八一年)川上郡の内、塩田村と丸山村が合併して成立し



御前神社から日名方面を望む

た「穴田村」でした。明治三二年には、宇治町の大字「穴田」となり、昭和二九年からは、高梁市宇治町の大字「穴田」となって現在に至っています。東には高倉町、西や南には成羽町長地・布寄や小泉が、北には成羽町中野や吹屋があります。西からは塩田川が島木川へと流れて合流しています。集落は、枝状に広がる谷筋や窪地状になった斜面に点在しています。そして、小字地名に白和、野呂、日名、宮陰地、陰地などの地名が見られ「穴田」の地形が想像できるのです。

宇治は、歴史の古い地域で、この「穴田」という地名も、平安時代の「倭名類聚抄」(和名抄)の「備中国下道郡」の頃に「穴田」(安奈多)とあって、備中一五郷の一つに記録されています。今では、この「穴田」の郷域は、明確ではありませんが、現在の宇治町本郷、宇治町穴田、宇治町宇治一帯に推定される説が有力だとされています。

中世には、承久の乱(承久三年(一二二二年)の戦功によって、穴田郷など近郷をもらって新補地頭として、信州から赤木氏が中野村滝谷城に入部して、のち土居屋敷に居住していた(赤木家文書)といわれています。また「吉備津神社文書」(岡山県古文書集)によると、吉備津神社へ「五百文、あなた中村直納」とか、「壹貫二百文 あなたさか本かくす所」とか、「二貫五百文 穴田西方直納路銭三百文」などと「流鏑馬料足納帳」に康正三年(一四五七)などの記録として「穴田」が納めたという記録が出てきます。また、「川上郡誌」に天正一一年(一五八三)一月一六日の御前神社(遠原村)所蔵の棟札銘に「穴田郷四箇村」とあって、遠原村など四か村が御前神社の領域だったことがわかるのです。安土桃山時代には、赤木忠房の嫡男、忠道が築城したと言われる丸山城跡があつて、高松城水攻めの時、救援にかけつけ、毛利氏より感状と領地をも



らい穴田村(塩田)へ移り住んで庄屋を世襲したといわれています。この庄屋の家に伝えられていた赤韋威鎧兜大袖付が国宝に指定されています。

近世の宇治村「穴田」は、毛利の支配から慶長五年(一六〇〇)幕府領、元和三年(一六一七)松山藩領、そして、元禄六年(一六九三)再び幕府領となり、同八年には松山藩領となって明治を迎えています。

「穴田」という地名は、古代から伝えられている地名で、市内に残る歴史地名の一つなのです。
(文・松前俊洋さん)